

## 令和2年度第1回広島市廃棄物処理事業審議会 議事要旨

### 1 日時

令和2年8月5日（水） 午後2時～午後3時35分

### 2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

### 3 出席委員

今岡 務（会長）、川本 季子（副会長）、伊藤 敏安、加藤 和行、佐々木 緑、滝島 繁樹、  
鉄村 忠基、天玉 朝子、杜師 章夫（以上9名）

### 4 次第

(1) 開会

(2) 議事

「広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の中間見直しについて

(3) 閉会

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴人の人数

0名

### 7 会議資料

〈会議関係〉

- 広島市廃棄物処理事業審議会 委員名簿
- 令和2年度第1回広島市廃棄物処理事業審議会 配席表

〈議事関係〉

- 資料1「広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画中間見直しの方針について（案）」
- 資料2「広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画中間見直し構成（案）」
- 資料3「広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（改定計画）の概要について（案）」
- 参考資料1「関連するSDGs」
- 参考資料2「ごみ排出量の推移」
- 参考資料3「第5章 行動計画」の見直しについて」

8 議事要旨

発言者	発言要旨
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>「広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の中間見直しについて事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
環境政策課長	<p>【「広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の中間見直しについて説明】</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ただ今の説明について、御意見、御質問等があれば承りたい。</li> </ul>
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>3点ほど質問がある。まず、プラスチックごみについてだが、どこかのページに言及があったが、今、中国や東南アジアでプラスチックごみの輸入を禁止したということで、業者が在庫を抱えており、処理が難しい状況となっている報告が出ている。広島市の処理の状況を見ると、ダイヤエコテックから、日本容器包装リサイクル協会へ回っているという流れがあるが、確かに市民レベルでペットボトルプラを減らしていくことは必要だが、市として、業者が本当にリサイクルしているのか、どういった状況になっているのかということ把握しているのか。産廃とは違うからそこまで関与はしないのかもしれないが、市として一応把握しておいたほうがよいのではないかと思う。</li> <li>そして、2点目として、資源ごみ持ち去り防止について、今後、これを研究していくということが書かれていたが、これまでもこういう会議に出ると必ず話題に出て対応が難しいという話だったが、実際どんなふうで中間見直しの中に入れていくのか。</li> <li>そして3点目は、社会的な動きと関連してということであれば、昨今、日本全国で様々な災害が起こっており、大規模災害などの有事の時に、どんなふうで安定的なごみ処理体制を組むのか。具体的などころまでは難しいかもしれないが、そのような時にどう対応するかということは、研究しないのか。</li> </ul>
業務部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず1点目の民間事業者が廃棄物の在庫を抱えていることに関する質問については、主に産業廃棄物だが、収集されている廃プラが大量に施設で滞留しているという状況を懸念し、環境省では、一般廃棄物処理施設における処理、例えば焼却などを可能にするということを全国的に展開している。ただし、広島県、また中国地方の産業廃棄物の状況を見ると、溜まっているという状況はあまり見当たらない。特に多いのが関東、関西、それから九州といったところの問題が報告されている。広島県ではそれ程懸念する状況ではない。 家庭ごみについては、容器包装リサイクル法に基づきダイヤエコテックにおいて家庭から出た廃プラのリサイクル事業を推進しており、これはきちんと流れているということを容器包装リサイクル協会から報告を受けている。</li> <li>続いて資源ごみの持ち去りについてだが、広島市の場合は要綱を設置しており、資源ごみの先取り業者の指導を行っている。これについては、ある程度効果はあったと思っているが、決してなくなっている状況ではない。そこで、県警と共同で検討しており、この計画の中に、県警と連携して規制ができる方策を加筆できればと思っている。</li> </ul>

発言者	発言要旨
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域別に持ち去り事案が何件あるというものがあるのか。</li> </ul>
業務部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>それはある。持ち去りは大きく二つあって、まず行政回収である資源ごみ、主にはアルミ缶や古紙について持ち去られるケースが多い。ただし、今年に入って、特に段ボールの価格が暴落している状況にあり、今までは持ち去られていたが、持ち去りがなくなってきたという状況がある。 もう一つとして、町内会等有価資源の集団回収を行っている。これについても持ち去りがあり、窃盗ということで犯罪行為になるので、県警と一緒にきちんと対応していきたいと思っている。</li> </ul>
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域別に特色があつたりするのか。</li> </ul>
業務部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域別での特色はないが、ただ、一つ特色としては、持ち去り業者はある程度エリアを決めているということはある。行政回収であれば、資源ごみの日として回収しており、市ホームページや「家庭ごみの正しい出し方」に日程表を掲載しているが、持ち去り業者はそれを見て各地域に行っているというものはある。一方で、町内会の回収分については、市で把握していないので公開はされていないため、以前は持ち去りが無かったが、最近では情報を仕入れて先取りをしている。</li> <li>それから3点目の災害廃棄物の件だが、これについては、災害廃棄物処理計画を別途策定しており、具体的に安定的な処理体制を整えている。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害廃棄物処理計画は議会を通ったのか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>議会への報告案件にはなっていない。内部決裁を取って計画策定ということになっている。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>この前の審議会で決定ということか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうである。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>多分前回は全く無かったと思うので、全然触れないわけにもいかないような気もするのだが。少し検討し、どこか書けるようなところがあったら入れてほしい。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>今の計画の43ページに「大規模災害に備えたごみ処理体制の構築」ということで、災害廃棄物の処理について主に書いているが、これに合わせてどのように書けるか考えてみたい。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ちょっと考えてみてほしい。 その他何か、お気づきの点などないか。</li> </ul>
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品ロスのことだが、ごみ減量・リサイクル実行委員会としても、令和元年に食品ロス削減推進法が施行されたので、昨年10月31日に駅前の広場で、一般市民への啓発を目的にごみ減量リサイクル実行委員の方々にも参加してもらい、食品ロス削減イベント活動を計画している。私たち自身も、賞味期限は、期限の短いものを買うように努力しているのだが、それだけではなく、やはり、食品メーカーが沢山食品を作り過ぎているということがある。「あいあいねっと」と懇談した時に、包装の絵がちょっと変わったから新しくなったから廃棄しますということで、賞味期限がまだ2年以上あるようなものがフードバンクに来ているということである。パッケージが変わったからといって別に内容が変わるわけではない。行政も一緒になって事業者に対して無駄に沢山作らないよう指導が必要。</li> </ul>

発言者	発言要旨
	<p>食品ロスを減らすには、スーパーのお弁当などは、余ったらいけないので、気候に合わせて、その都度大体の平均を取ったり、他の催しがあるときは多めに作るとか、年間計画を立てながら作る必要がある。今は大分出来ていると思うが、やはり私たちが努力しても限界があるので、食品メーカーに無駄が無いようにしてもらう必要がある。食品ロス削減に取り組む時に、ごみ減量・リサイクル実行委員会ではいつもアンケートを取っているのだが、今年は、推進法が施行された後、事業者自体にどれくらいの食品ロスが出たかということを知る範囲内で報告してくださいと課題を出しているが回答が戻っていない。私たちが一方的に判断するのではなく、事業者にも聞いてみようということで、質問させていただいている。メーカーが沢山作るということや3分の1ルール<sup>*</sup>など、広島の実業者もそういうことを減らして、無駄なものを作らない、そして、有効的に作って余った余剰食品をフードバンクに寄付したり、子ども食堂に寄付したりすればいいと思うが、何か違うことをしないと、今のままのことをしていたら、なかなか難しい。その辺りの取組を、もう少し踏み込んで進めてもらわないと、今やっている範囲の中では限度がある。何故、賞味期限がまだ2年もあるようなものをフードバンクにあげているのか。沢山来るのはありがたいが、売っている事業者だけでなく、作るメーカーも一緒になってやらないといけないと思う。広島にも色々な食品の工場があるので、そういうところで、何かアクションが起こせて、食品ロスが目に見えて減って、有効活用できたらいいと思っている。この審議会にスーパーには入ってもらっているが、食品工場は入っていないので、その辺りも含めて、食品ロス削減にもう一步踏み込んでいただけたらありがたいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月1日からレジ袋有料化となり、買い物袋持参について、私も市も長い間活動してきたが、昨日の新聞に、コンビニが75%の客が買い物袋を持参したというのが出ていた。事業者の方からは、自分たちが努力してレジ袋を渡さなくても、コンビニやドラッグストアなどが無料配布をしているという声が出ていたが、7月1日にこれが解決した。買い物袋持参を今後も定着させていきたいと思っている。</li> <li>・ SDGsについての資料は、分かりやすく良かったし、基本計画の中に入れるのはいいことだと思う。子どもとエコクッキングをしたり地域で活動したりする時に、広めたいと思う。</li> </ul>
業務部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副会長の言われるとおり食品ロス削減推進法ができ、「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」が閣議決定された。その内容は、大雑把に言うところ、消費者、事業者、事業者の中には製造業者もいるし、卸売業者、それから小売業者、それから外食事業者もあるが、こういったそれぞれの事業者が何をすべきなのか、その役割について記載されている。また、国、地方自治体としてどういったことをやっていくのか、また国と地方自治体と共同して、どのような形でやるのかということが方針の中に書かれている。</li> </ul> <p>先ほど話があった3分の1ルール、この辺りも広島市だけの単独ではなかなか難しい。やはり流通の部分もいづらかメスを入れる必要があり、方</p>

発言者	発言要旨
	<p>針の所管には経済産業省も入っているの、この辺りでいづらか動きが出てくるものと思っている。そのような動きと合わせて、広島市がいづらか活動できるような部分があれば、やっていきたいと思っている。</p> <p>いづれにしても、この基本計画の中で、どこまで記載できるかということはあるが、国の動きで見える部分があるのであれば、記載できればと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レジ袋については、7月1日から有料化が施行され、市民の方々からの問い合わせ、これが有料なのか、無料なのか、当初混乱が予想されたが、現在のところ広島市においては大きな混乱はない。コンビニでは75%が買い物袋を持参しているという情報は得ている。</li> </ul>
伊藤敏安委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>二つ感想と三つ質問がある。まず感想だが、資料2の構成案の第5章の1で、従来は「焼却量」、「埋立量」と出口の理論だったのが、今度の案では、「家庭ごみ」、「事業ごみ」、「食品ロス」と入り口の側から整理されているので分かりやすくなったと思う。</li> <li>もう一つの感想は、まだ案の段階だが、参考資料3で従来の現行計画の再掲を無くすという点と、もう一つは、完了したものは削除していくということで、これも非常に分かりやすいと思う。</li> <li>ただ一方、あくまでも案ではあるが、例えば令和元年度基準で1人1日当たり70グラムを減らしていく、家庭ごみ、事業ごみの合計であり、もちろん水切りをした後の量だが、かなり厳しいと思う。もっと入り口辺りから議論していく必要があるのではないかと。マクロ目標はいいのだが、ミクロ的な人々の行動をどう変化させるか、ということはこの場で議論しなくてはいけないのだけれど、なかなか直ぐには出てこない悩ましい問題であると思った。</li> <li>質問だが、資料3の焼却量は減っているのに埋立量、特に焼却灰だが、なぜ増えるのか。多分災害ごみだけではないと思うので、理由があれば教えていただきたい。</li> <li>質問の二つ目は、資料の3の2ページ、「3 目標の設定、減量目標」の本文の4行目に記載があるが、増減の理由について、「施策の実施時期の変更」というのは具体的にはどういったことか。もし、ごく一部の制度や仕組みを変えるだけで、人々の行動が変化すれば、規制を厳しくしたり、課税したりするよりもはるかに低コストで上手くできると思うので、できればこういった仕組みをどんどん議論してもらいたい。ミクロな行動計画の問題だが、非常に重要なキーワードのように思った。中身を教えていただければと思う。</li> <li>それから3点目の質問だが、災害ごみについては、昨年度計画を作ったところだが、食品ロスについては、この一般廃棄物処理計画の中の一部項目だけで、別立てする必要はないと解釈してよいのか。</li> </ul>
施設部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度に焼却灰の埋立量が増えている最大の理由は、平成30年度までは安佐北工場の焼却灰だけはセメント化しリサイクルを行っていたが、安佐北工場の廃止に伴い、安佐北工場のリサイクルだけで億単位の経費が掛かるという経費の問題があり、安佐北工場の廃止とともに焼却灰の</li> </ul>

発言者	発言要旨
	リサイクルを取り止めたため、これが埋立量に回ったということである。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2点目の質問についてだが、資料3の2ページ目にある、施策の実施時期の変更についてだが、現計画においては、平成28年度から事業ごみのプラスチック類を焼却する計画としており、これに基づき目標数値の設計をしていたが、事業ごみのプラスチックについては、令和2年度から埋立てではなく焼却するというので、実施時期の変更をしたため、このことを記載しているところである。</li> <li>• 3点目の食品ロスの削減計画だが、国が基本的な方針で、必ずしも個別の計画とする必要はなく、基本計画のほうで位置付けをするという形でも良いとしており、広島市においても、必ずしも個別の計画ではなく、この基本計画の中に位置付けるという形で、食品ロス削減推進計画を考えている。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 食品ロスを1人1日当たり70グラム減らすのは難しいと思う。事務局で考えていることがあるか。</li> </ul>
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 確かに70グラムというのは非常に大きい数字で、卵1個分くらいだろうと思う。効果的な具体策については検討している段階であり、新型コロナウイルス感染症の影響で、状況が変わってきているということがある。事業ごみについてはかなり影響が出てきている。家庭においても新しい生活様式ということで、外出自粛の際に、料理や片づけをして一気にごみが増えたということがある。3月、4月、5月と家庭ごみについては増えてきている。6月になってコロナの状況が落ち着いたので、事業ごみも家庭ごみも例年ぐらいになってきている。コロナの状況を見ながら、今年度、1年間経過しないと、どのような状況になるか分からないので、月々の変化を見ながら、何か施策がとれないかを検討していきたい。</li> </ul>
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一つ質問させていただきたい。食品ロスの話で、昔のことを思い出したのだが、30年くらい前、息子のPTA会長をしている時のことである。ある学校の子供が学校で給食のおかわりをしようと思ったら、おかわりは無いと言われ、育ち盛りの子供がそれではいけないのではないかとその保護者が言ったことがきっかけで、本当かどうかは分からないが、私が耳にしたのは、そのことがあって全国の学校給食では、1割余分に作ろうという話がまとまったと聞いた。全国的に膨大な量の給食が10%捨てるために作られていると聞いた覚えがある。昔の話で、現在は分からないが、現状はどうなのか。</li> </ul>
業務部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校給食のことだが、環境局では具体的なことは分からないが、以前、教育委員会事務局から話を伺ったことがある。その時には、1割という数字は聞いていないが、少なくとも学校給食には栄養摂取基準があり、これによりきちっとした量、カロリー、栄養素を計算して作っているということで、例えば、欠席した児童やアレルギーの問題で食べられない児童の分についても作っているが、その分については、例えばクラスごとで食べきるということをやっているという学校も多々あると聞いている。例えば、おかわりを望む児童がいれば提供し、できる限り全ての食材を食べ切るように仕向けるというのは、食育の観点からもやっているとのことであった。</li> </ul>

発言者	発言要旨
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>概略は大体理解できたのだが、質問が2点ある。1点目は、資料3の第2章の2のグラフの上に記載してあるが、政令指定都市中の順位が4位になったということで、他の政令指定都市の1人1日当たりの排出量が非常に減ったということなのか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島市は現在4位ということで、上位にいるのが、川崎市、横浜市、京都市である。</li> </ul>
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば1位と最下位はどのくらいの排出量なのか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>川崎市が1位だが、平成30年度実績は816グラム、これに対して広島市が850グラム、その差が34グラムである。例えば川崎市の平成28年度実績は859グラムとなっており、2年間で約40グラム落としているという状況である。</li> </ul>
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>少ない方から数えて4番目なのか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうである。最下位は、北九州市だが、1,098グラムとなっている。</li> </ul>
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこも大体微減しているが、ちょっとした差という感じなのか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、北九州市と比べると、約250グラムの開きがあるので、それについては少し大きいかなという気もする。</li> </ul>
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4位というのは、多いほうから4番目になったのかと誤解していた。他の都市はどんな方法で下げたのかということを知りたかったのだが、ほぼ最少のグループにはいるということで安心した。</li> <li>2点目であるが、第4章「2 前期の目標達成状況」のところで、平成元年度の値と目標値を比較してあり、残念ながらあまり減少していないという結果は分かるのだが、これに対してもう少し分析をするべきではないかという気がする。「3 目標の設定、減量目標」にいくつか減少していない理由が書いてあるが、もう少し色々なデータを基に詳しい分析をして、それを基に改善すべきところを考えていただければと思う。今回のコロナ関係のような想定外のこともあるが、それを踏まえなければ、前進しているという評価なのか、そういうものが無くても目標にかなり届いていないという評価なのか、あるいは景気が大きく左右するというのであれば、景気が良くなるパターン、例えば何パーセントの経済成長とか、いくつかのパターンで数値目標を見直すということも考えてもいいのではないかと思う。つまり、せっかく数値目標を立てたのであれば、それを守らなくてはいけない立場だと思うので、どうしてもやむを得ない理由で無理だったということであればしょうがないと思うが、いくつかのパターンを考えて、目標を達成できる部分というのは確保すべきではと思う。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かに現在目標数値と実績との乖離があるところであり、こういった要因でということは計画の素案を作っていく中で、そこを踏まえたものを書いていければと思っている。目標数値と実績との乖離の部分について、例えば先ほど言われたコロナのことであったり、色々な要因等ははっきりしたことが分かれば、こういう要因で目標値まで至らなかったとか、そういったところも評価していければと思っている。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>その辺りの解析も加えて次回の資料で出してもらえればと思う。</li> </ul>
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料3の3枚目だが、「ごみ出し支援の推進」のところで、「福祉部局と</li> </ul>

発言者	発言要旨
	<p>連携したごみ出し支援の検討」とあるが、高齢者は、足が悪くなるとごみを出すのがとても大変で、私も近くのお年寄りのごみ出しのお手伝いをいつもしている。これは、検討ではなくて施策の中に入れていただき、ごみ出しにおけるコミュニケーションにより、何かがあった時の行動も取れるので、これは検討となっているが、施策として実施していただけるとありがたいと思う。是非よろしく願いたい。</p>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確かに直ぐに実施できればいいのだが、ごみ出し支援については、支援を必要とされる方全てを対象にできるような施策として取り組んでいければと考えているので、もう少しお時間をいただければと思っている。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施には少し時間がかかるかもしれないと思う。</li> <li>・ その他何か意見等はあるか。よろしいか。 特に無いようなので、一応、今回、この廃棄物処理基本計画の中間見直しをするということに関して、委員の皆さんから今日いただいた意見を参考にして進めさせていただくということによろしいか。</li> </ul>
各委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はい。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画について、事務局から提示のあった中間見直しを行うこととして、委員から出された意見を参考にしながら、改定案の作成に進んでいただければと思う。</li> <li>・ 今日初めてこの見直しの資料を見ていただいたので、この後もお気づきの点などがあれば、事務局へ是非お寄せいただきたい。</li> <li>・ それでは、以上で予定していた議事は終了とさせていただきます。</li> </ul>

※ 「3分の1ルール」とは、例えば、製造日から賞味期限までの期間が6か月の場合、①食品メーカー・卸から小売店までの納入までを2か月（納品期限）、②小売店から消費者に販売するまでを2か月（販売期限）、③消費者の購入から賞味期限までを2か月、というように製造日から賞味期限までの期間を3分の1ずつ区切るもの。①の納品期限や②の販売期限が過ぎた食品は、その時点で返品や廃棄されることがあり、食品ロス発生の要因の一つとも言われている。